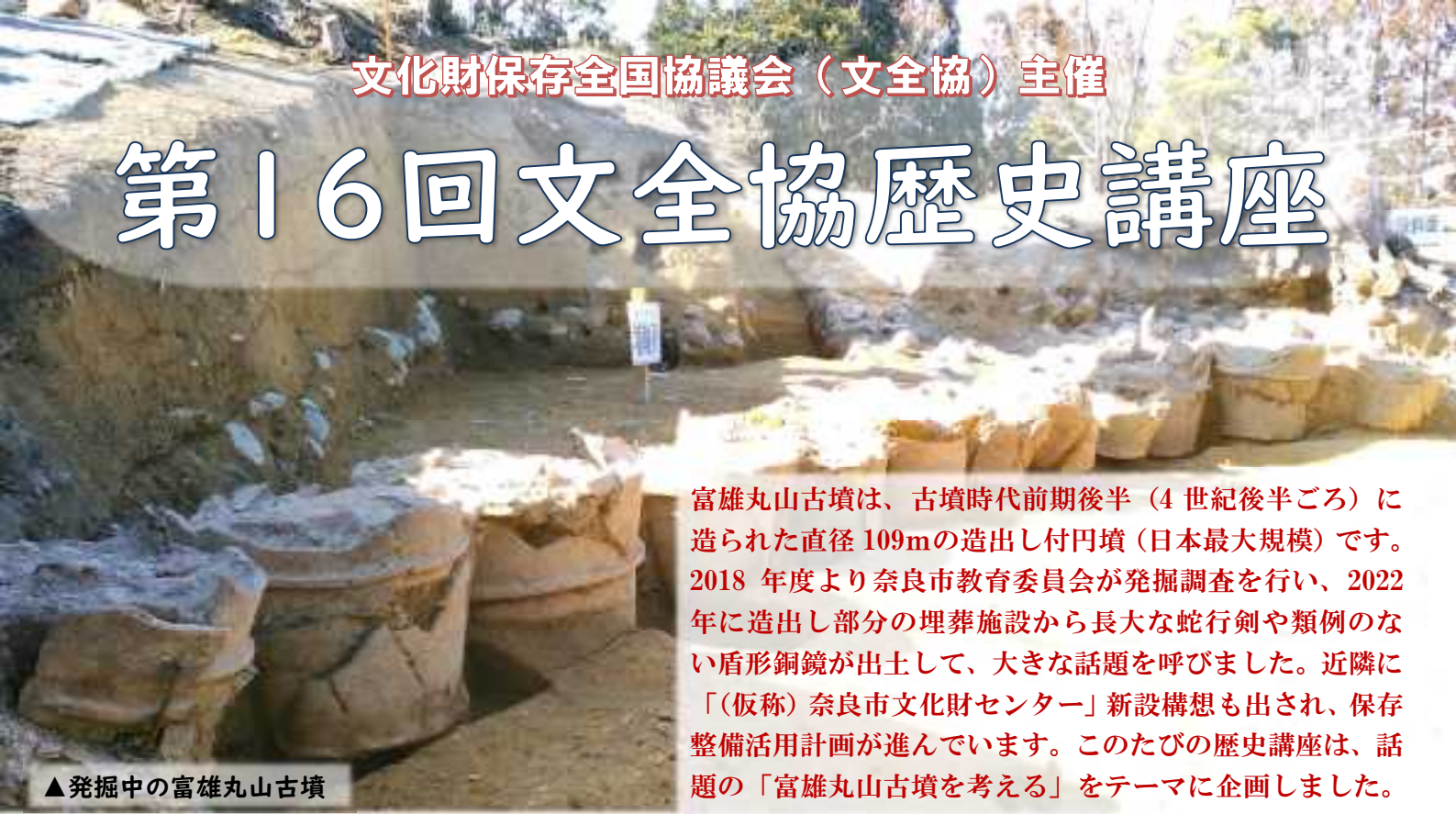


文化財保存全国協議会（文全協）主催

第16回文全協歴史講座



▲発掘中の富雄丸山古墳

富雄丸山古墳は、古墳時代前期後半（4世紀後半ごろ）に造られた直径109mの造出し付円墳（日本最大規模）です。2018年度より奈良市教育委員会が発掘調査を行い、2022年に造出し部分の埋葬施設から長大な蛇行剣や類例のない盾形銅鏡が出土して、大きな話題を呼びました。近隣に「（仮称）奈良市文化財センター」新設構想も出され、保存整備活用計画が進んでいます。このたびの歴史講座は、話題の「富雄丸山古墳を考える」をテーマに企画しました。

日時 2025年 **1月25日(土)** 13:30~16:30

会場 **奈良市ならまちセンター 会議室2・3・4**

奈良市東寺林町38番地（TEL 0742-27-1151）

JR奈良駅東口より東へ徒歩15分／近鉄奈良駅より南東へ徒歩12分

事前申込不要・先着90名

資料代 500円

おがさわらよしひこ

講師：小笠原好彦氏（滋賀大学名誉教授・文全協前代表委員）

とみおまるやま

富雄丸山古墳の被葬者を考える

富雄丸山古墳は全長100mを越えながら、なぜ円墳なのか。優れた副葬品と富雄川流域という古墳の築造地、さらに築造時期をふまえて被葬者を推測する。



かわちはるひこ

講師：河内晴彦氏（丸山1丁目住民、歴史教育者協議会会員・文全協会員）

地域住民から見た富雄丸山古墳 発掘調査と『古墳の森』の今後

富雄丸山古墳は、私が37年前から住む東急が開発した若草台の中にある古墳（1号緑地）である。奈良県と奈良市による発掘調査の経過と共に、一地元住民として、今後の古墳の保存整備活用について思うところを述べたい。



【問い合わせ先】 文全協事務局 杉田 義（ただし） TEL・FAX 0743-52-1404